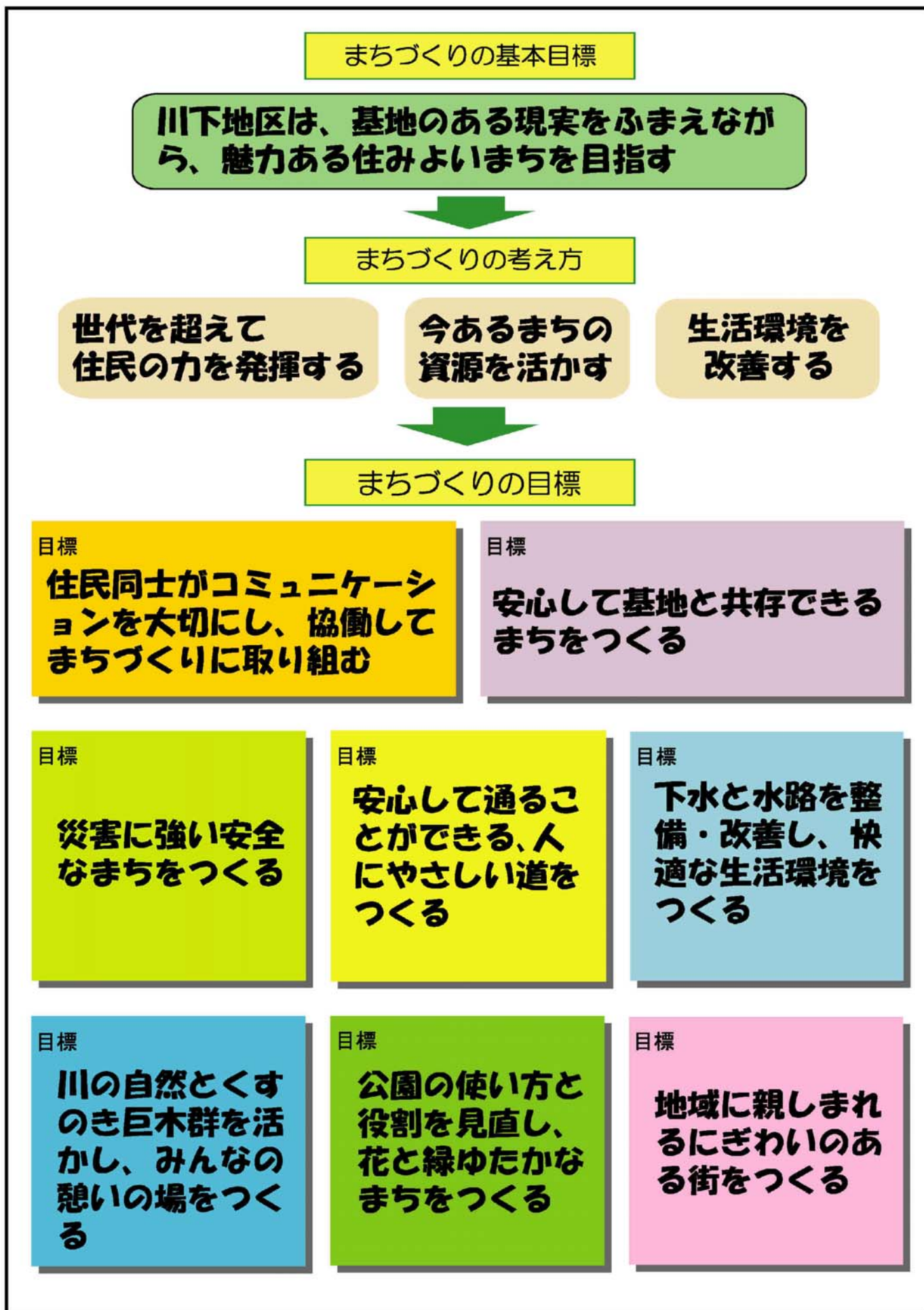


川下地区まちづくり計画 (改定版)

令和4年 6月

川下地区まちづくり協議会

■ 基本構想



■ 基本計画 ～8つの目標の実現に向けて～

1

快適に住みつつけられる住環境に改善する

基地に隣接する住宅地である現状をふまえつつ、今いる子どもからお年寄りまでの住民、また将来の子ども達が、安心して快適に川下地区に住み続けられるためには、基地と共存できる環境を整備するとともに、自分の家から歩いていける身近な地域の環境を豊かなものに改善していくことが必要です。

にぎわいのある商店街、住み心地の良い住宅と美しいまちなみ、子ども達や住民が憩いつどう身近な公園や路地等になるよう今の住環境を見直し、誰もが安心して快適で健やかに住み続けられるよう改善します。

【計画内容】

- ◇ 複数ある既存の公園を整理し、子どもから大人まで利用できる、安全で身近な交流・憩いの場となるよう、公園ごとに使い方にバリエーションを設けた再整備を行う
- ◇ 一定の広さがある公園は、災害時の一次避難場所となることを考え、入りやすさを改良し、トイレや水道等の防災設備を充実させる
- ◇ 路地では、庭木や塀、建物を活かし、歩いて心地よいみちにする
- ◇ 中津居館跡等、川下の歴史を伝える資源を活かし、子どもたちへ伝えるとともに、寺社やほこら、お地蔵さん等は、川下の文化として大切にする
- ◇ 川下出張所の建替えと併せて、出張所も一体となった川下地区住民の防災・交流拠点となる施設の整備を推進し、日常やイベント等、多様な機会での交流を促進し、にぎわいづくりに取り組む
- ◇ 楠中津線をはじめ、川下出張所周辺の通りにおけるにぎわいづくりに取り組む
- ◇ 下水と水路を整備・改善する
- ◇ 騒音対策を充実させ、住みやすい住環境を整備する
- ◇ 川に挟まれた三角州である地理的環境をふまえ、大雨・浸水時の避難場所や災害情報の入手、避難の方法等、地元における災害時の対応について調査・研究しながら、災害時の安全性の向上に向けて取り組む

2

快適で安全に暮らすために道路・交通環境を改善する

現在の川下地区には、消防車などの緊急車両が通行できない狭い道が多く、また自動車の交通量が多いにもかかわらず歩道のない幹線道路もみられます。

川下地区の道路を、多くの車が通行する幹線道路、地区内での消防活動や主な避難路・通学路にあたる主要な生活道路、それらに囲まれた街区の中にある生活道路に区分し、それぞれの役割に応じた整備を進め、車も人も安心して通行できる道路・交通環境に改善します。

【計画内容】

- ◇ 避難ネットワークも担うことになる川下地区と地区外を結ぶ主要な幹線道路を整備する
- ◇ 楠広場周辺に計画されている親水公園（中央公園）の整備にあわせて、アクセス道路を整備する
- ◇ 地区内の幹線道路を結び東西の骨格となる幹線道路を整備する
- ◇ 地区の骨格を担う幹線道路と接続する生活道路のネットワークを整備・改善する
- ◇ 緊急車両（消防車・救急車等）が通行でき、災害時に安全な避難ルートとなる生活道路を整備・改善する
- ◇ 子供たちが安全に通学できるよう主要な生活道路には歩道を整備する
- ◇ 誰もが安心して安全に通行できる歩行環境となるよう整備・改善する
- ◇ 狭あい道路整備事業等を活用して身近な生活道路を整備・改善することにより、空家を解消し、土地活用を促進する
- ◇ 地域ごとに身近な生活道路の安全性について話し合い、改善に向けた計画を立てる
- ◇ 道路標識等を日本語と英語の両表記にすることで、日本人も外国人も住みやすくなるよう道路・交通環境を整備・改善する

3

多くの人交流できる場を整備する

川下地区には、地区の両サイドに流れる川とくすのき巨木群があり、多くの人に憩いとやすらぎを与えてくれる貴重な空間となっています。このような地域の資源を活かしながら、地域の人たちだけでなく、多くの市民が交流できる場を整備し、川下地区のまちの魅力を高めます。

【計画内容】

- ◇ 楠広場とその周辺は、地区のシンボルであるくすのきを活かした水辺のオアシスとして、早期に整備する
- ◇ 岩国錦帯橋空港を活かした地域の活力づくりに取り組む
- ◇ 基地との共存に向け、基地側の土地を使って緩衝緑地帯を整備する
- ◇ 川沿いの道は車の通行を減らし、緑と水辺を楽しめる歩行者中心の散歩道として整備する
- ◇ くすのきと桜は、川下のシンボルとして大切に育むとともに、錦川（今津川・門前川）での魅力ある水辺の風景を保全・創出する
- ◇ 錦川（今津川・門前川）の川と水辺を活かしたレクリエーションづくりに取り組む
- ◇ 河川敷の農地や空いている農地（休耕地等）を市民農園として貸し借りする等、有効利用する
- ◇ （都）昭和町藤生線の整備に伴い利用を希望する土地は、スポーツもできる、地区内外の多くの人にとっての交流拠点となる、川下らしさを活かしたエリアとして整備する
- ◇ 地域に親しまれる川下らしさを活かした商店街づくりに向けて、休憩やおしゃべりを楽しめるにぎわいや和みの場を整備する
- ◇ 既存の公共施設等を見直し、利用可能な場所や引込み線跡地等の遊休公有地については、地域の身近な交流の場として有効活用する

4

住民同士で協力しながら主体的に活動する

まちづくりは、地域内での交流や防災防犯、清掃活動やにぎわいづくり、子どもたちの教育など、多様な分野にわたっており、またハード整備だけでは解決できない問題も多くあります。

川下地区では、すでにいろいろな組織やグループがさまざまな活動を行っており、住みよいまちになるように、住民同士で協力しながら地域が一体となった活動を行います。

【計画内容】

- ◇ 地区内におけるいろいろな組織間で連携・協力した活動に取り組む
- ◇ 子ども達が健やかに育つよう、学校と地域が連携した活動に取り組む
- ◇ 地域において人と人とのつながりを育む活動に取り組む
- ◇ 基地と連携・協力した交流を促進する（イベント／日常）
- ◇ 安心・安全に暮らせるよう、地域が一体となった防犯・防災活動に取り組む（地域防災体制の充実等）
- ◇ 道路や公園、水路を美しく維持するため、子どもから大人までが楽しみながら参加できるイベント等の企画と連携しながら、清掃活動や花づくり等に取り組む
- ◇ 川とくすのきを活かし、水辺を楽しむレクリエーション等を通して、人々との交流を促進する（イベント、行事等）
- ◇ 地域のにぎわいや活かづくりにつながる活動に取り組む（イベント等）
- ◇ 一人ひとりがマナーを守り、住みやすい生活環境づくりに取り組む

地域と行政が協力し、計画を実現させる

まちづくりには、行政の協力なしには実現できないことも多くあります。地域と行政が互いに努力し、協力しながら、計画の実現を目指します。

【計画内容】

- ◇ 1～4の実現に向けて、基本計画案について地域の人たちと合意形成を進める
- ◇ 合意された基本計画案を行政に提案し、行政と地元で計画案を共有する
- ◇ 計画の実現にむけ、行政と地元が双方で努力し、一体となった取り組みを進める

まちづくり基本計画図

<目標の実現にむけた4つの柱>

- 1 快適に住みつづけられる住環境に改善する**
- 2 快適で安全に暮らすために道路・交通環境を改善する**
- 3 多くの人が交流できる場を整備する**
- 4 住民同士で協力しながら主体的に活動する**

- ・地区内におけるいろいろな組織間で連携・協力した活動に取り組む
- ・子ども達が健やかに育つよう、学校と地域が連携した活動に取り組む
- ・地域において人と人とのつながりを育む活動に取り組む
- ・基地と連携・協力した交流を促進する(イベント/日常)
- ・安心・安全に暮らせるよう、地域が一体となった防犯・防災活動に取り組む(地域防災体制の充実等)
- ・道路や公園、水路を美しく維持するため、子どもから大人までが楽しみながら参加できるイベント等の企画と連携しながら、清掃活動や花づくり等に取り組む
- ・川とくすのきを活かし、水辺を楽しむレクリエーション等を通して、人と人との交流を促進する(イベント、行事等)
- ・地域のにぎわいや活力づくりにつながる活動に取り組む(イベント等)
- ・一人ひとりがマナーを守り、住みやすい生活環境づくりに取り組む

- ・緊急車両(消防車・救急車等)が通行でき、災害時に安全な避難ルートとなる生活道路を整備・改善する
- ・子供たちが安全に通学できるよう主要な生活道路には歩道を整備する
- ・誰もが安心して安全に通行できる歩行環境となるよう整備・改善する
- ・道路標識等を日本語と英語の両表記にすることで、日本人も外国人も住みやすくなるよう道路・交通環境を整備・改善する

- ・複数ある既存の公園を整理し、子どもから大人まで利用できる、安全で身近な交流・憩いの場となるよう、公園ごとに使い方にバリエーションを設けた再整備を行う
- ・一定の広さがある公園は、災害時の一次避難場所となることを考え、入りやすさを改良し、トイレや水道等の防災設備を充実させる

くすのきと桜は、川下のシンボルとして大切に育むとともに、錦川(今津川・門前川)での魅力ある水辺の風景を保全・創出する

川沿いの道は車の通行を減らし、緑と水辺を楽しむ歩行者中心の散歩道として整備する

・地区内の幹線道路を結び東西の骨格となる幹線道路を整備する
・地区の骨格を担う幹線道路と接続する生活道路のネットワークを整備・改善する

楠広場とその周辺は、地区のシンボルであるくすのきを活かした水辺のオアシスとして、早期に整備する

楠広場周辺に計画されている親水公園(中央公園)の整備にあわせて、アクセス道路を整備する

錦川(今津川・門前川)の川と水辺を活かしたレクリエーションづくりに取り組む

河川敷の農地や空いている農地(休耕地等)を市民農園として貸し借りする等、有効利用する

川下出張所の建替えと併せて、出張所も一体となった川下地区住民の防災・交流拠点となる施設の整備を推進し、日常やイベント等、多様な機会での交流を促進し、にぎわいづくりに取り組む

楠中津線をはじめ、川下出張所周辺の通りにおけるにぎわいづくりに取り組む

地域に親しまれる川下らしさを活かした商店街づくりに向け、休憩やおしゃべりを楽しむにぎわいや和みの場を整備する

- ・狭あい道路整備事業等を活用して身近な生活道路を整備・改善することにより、空家を解消し、土地活用を促進する
- ・地域ごとに身近な生活道路の安全性について話し合い、改善に向けた計画を立てる

- ・路地では、庭木や塀、建物を活かし、歩いて心地よいみちにする
- ・中津居館跡等、川下の歴史を伝える資源を活かし、子どもたちへ伝えるとともに、寺社やほこら、お地藏さん等は、川下の文化として大切に

(都)昭和町藤生線の整備に伴い利用を希望する土地は、スポーツもできる、地区内外の多くの人にとっての交流拠点となる川下らしさを活かしたエリアとして整備する

避難ネットワークも担うことになる川下地区と地区外を結ぶ主要な幹線道路を整備する

下水と水路を整備・改善する

岩国錦帯橋空港を活かした地域の活力づくりに取り組む

基地との共存に向け、基地側の土地を使って緩衝緑地帯を整備する

騒音対策を充実させ、住みやすい住環境を整備する

既存の公共施設等を見直し、利用可能な場所や引込み線跡地等の遊休公有地については、地域の身近な交流の場として有効活用する

川に挟まれた三角州である地理的環境をふまえ、大雨・浸水時の避難場所や災害情報の入手、避難の方法等、地元における災害時の対応について調査・研究しながら、災害時の安全性の向上に向けて取り組む

<土地利用区分>

- 住宅や身近な店舗等からなる住居系エリア
- 多様な種類の店舗が集まる中心商業系エリア
- 日常生活に身近な商業・サービス店舗が立地するエリア
- 工場や作業場・倉庫等が集まる工業系エリア
- 小学校・中学校

<主要な道路>

- 川下地区の骨格として整備を進める幹線道路(都市計画道路)
- 基地の一部利用にあわせて整備を進める幹線道路
- 広域的な施設の整備にあわせて整備を進めるアクセス道路
- 周辺地域の住民が安全に暮らせるように整備する主要な生活道路

道路のイメージ

- 【幹線道路とは】
- ・地区内外での交通を円滑にする主要な道路
 - ・車道と歩道は区別し、バス等の大型車も通行可能な道路
- 【主要な生活道路とは】
- ・消防・防災活動のための緊急車両が通行できる道路
 - ・通学路等として安全な歩道がある道路
 - ・地震による倒壊時でも車両が通行できる道路
 - ・道幅は8~10mくらいを目途

<凡例>

- 地区の拠点となる公園
- 身近な公園(街区公園等)
- 川下出張所・供用会館・集会所
- 引込み線跡地
- 寺社・お社

